※令和５年度以降入学生用

学校番号	319

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学ⅠA 標準演習(S)(L)	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	ニュースタンダード　数学演習Ⅰ・A＋Ⅱ・B・C　（数研出版）						
副教材等	数学Ⅰ・Aプレノート Half　（数研出版） 2026パックⅤ　共通テスト実践問題　数学Ⅰ・A　35（駿台文庫）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・　授業では入試問題を用い、自ら考え、考えを発表し、その解答へのプロセスを共有します。
・　前期はⅠA全範囲を一単元ずつ復習し、知識や解答方法などを改めて身につけましょう。
・　各自が自らの力で解答に辿りつく力を養うため、前期前半は解答を配布しません。解答配布後もすぐに解答を見ることなく、自力で解答へのアプローチを見つける力を身につけましょう。
特に解答配布後は答えに辿りつければ良いのではなく、解答への道筋をきちんと考え説明できること重要になります。
・　後期からはプレノートやパックⅤなどで共通テスト本番と同じ形式の問題を利用し、式と式の間の考えを埋める力を養います。

2　学習の到達目標

・数と式や三角関数，二次関数，図形の性質，確率などの分野について基本的な概念や原理・法則に関する理解を深め，事象を数学化したり、数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。
・数と式や三角関数，二次関数，図形の性質，確率などの分野について多面的に見たり考察する，論理的に考察し，表現するなど，事象を数学的に考察したり，思考の過程を振り返り，多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身に付ける。
・数と式や三角関数，二次関数，図形の性質，確率などの分野について，数学的知識を用いて事象を表現する良さを認識し，自己の問題解決の過程を振り返って考察を深める。また，協同的な活動の中で，他者の考えをもとに自己の理解を変容させて深い理解やより良い表現ができるようになる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度

※令和５年度以降入学生用

観点の趣旨	数学Ⅰ･A の各分野についての基本的な概念や原理・法則に関する理解を深め，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学Ⅰ・A の各分野について多面的に見たり考察する，論理的に考察し，表現するなど，事象を数学的に考察したり，思考の過程を振り返り，多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身に付けている。	数学Ⅰ･A の各分野について，数学的知識を用いて事象を表現する良さを認識し，自己の問題解決の過程を振り返って考察を深め，積極的に評価・改善したりしようとしている。また，協同的な活動の中で，他者の考えをもとに自己の理解を変容させて深い理解やよりよい表現に努めようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	数と式	１ 式の計算(1) ２ 式の計算(2) ３ １次不等式	a: 乗法公式や因数分解の公式を理解して，目的に応じて変形することができる。平方根や絶対値について理解している。１次不等式の立式を行い，解を求めることができる。 b: 式を整理したり形に着目したりすることで工夫した計算を行うことができる。 c: 自身の発表に向けて問題への理解を深めている。解答内容をよりわかりやすく、より良い表現にしようと努めている。他者の発表の際に自分への理解へつなげようとしている。	確認テスト 定期考査	定期考査 提出プリント	確認テスト 提出プリント 振り返りシート 観察

※令和 5 年度以降入学生用

	集合と命題	4 集合と命題	a: 集合に関する基本的な概念を理解している。命題と条件に関する用語を理解し，真偽を決定できる。必要条件・十分条件等の条件を理解している。 b: 集合の条件を理解し，問題の解答に繋げることができる。対偶や背理法による証明ができる。集合を活用して命題の真偽，必要条件，十分条件の判断に利用できる。 c: 自身の発表に向けて問題への理解を深めている。解答内容をよりわかりやすく、より良い表現にしようと努めている。他者の発表の際に自分への理解へつなげようとしている。	確認テスト 定期考査	定期考査 提出プリント	確認テスト 提出プリント 振り返りシート 観察
	2 次関数	5 2 次関数，最大･最小(1) 6 最大･最小(2) 7 2 次方程式と 2 次不等式 8 2 次関数の種々の問題	a: 2 次関数の式やグラフについて理解している。頂点と最大値･最小値の関係を理解している。因数分解や解の公式などを利用して，2 次方程式・2 次不等式を解くことができる。判別式を利用して，解の個数の関係を理解している。 b: グラフの平行移動や対称移動について考察し，式の変化を導くことができる。2 次方程式・2 次不等式と解の関係性から立式し，解を求めることができる。複雑な式を置き換えなどを利用して整理し，解答を導くことのできる形に変形することができる。頂点の変化で最大値･最小値がどのように変化するかを理解できる。 c: 自身の発表に向けて問題への理解を深めている。解答内容をよりわかりやすく、より良い表現にしようと努めている。他者の発表の際に自分への理解へつなげようとしている。	確認テスト 定期考査	定期考査 提出プリント	確認テスト 提出プリント 振り返りシート 観察

※令和 5 年度以降入学生用

	図形と計量	9 三角比と図形(1) 10 三角比と図形(2) 11 図形の計量	a: 鋭角の三角比や相互関係、正弦定理・余弦定理を理解し，式の値や辺や角度の大きさ，面積・体積を求めることができる。 b: 与えられた式や条件をもとに，様々な定理や性質が利用できるように式を変形するなどの工夫を行うことができる。 c: 自身の発表に向けて問題への理解を深めている。解答内容をよりわかりやすく、より良い表現にしようと努めている。他者の発表の際に自分への理解へつなげようとしている。	確認テスト 定期考査	定期考査 提出プリント	確認テスト 提出プリント 振り返りシート 観察
	データの分析	12 データの代表値と散らばり 13 データの相関、仮設検定の考え方	a: データの代表値や分散，標準偏差，四分位数，相関係数など，データの分析に必要な各値を求めることができる。度数分布表やヒストグラム，箱ひげ図，散布図などの図表の書き方や意味を理解できる。外れ値や仮説検定の考え方を理解できる。 b: 図表と値の関係性について理解し，図表から読み取れる内容と読み取れない内容について説明ができる。また，図表から適切な値を選択することができる。変量変換によって各値がどのように変化するか理解できる。 c: 自身の発表に向けて問題への理解を深めている。解答内容をよりわかりやすく、より良い表現にしようと努めている。他者の発表の際に自分への理解へつなげようとしている。	確認テスト 定期考査	定期考査 提出プリント	確認テスト 提出プリント 振り返りシート 観察

※令和 5 年度以降入学生用

	場合の数と確率	14 場合の数, 順列 15 組合せ 16 確率(1) 17 確率(2)	a: 順列，円順列，重複順列，組合せ，同じものを含む順列，重複組合せなどその場合に応じた計算をすることができる。確率の意味を理解し，計算することができる。期待値を求めることができる。 b: 順列・組合せなどに理解し，事象に応じて，使う式を見極めることができる。状況に応じて利用できる定理や公式を理解し，求めたい確率を求めるための手順を考えることができる。 c: 自身の発表に向けて問題への理解を深めている。解答内容をよりわかりやすく、より良い表現にしようと努めている。他者の発表の際に自分への理解へつなげようとしている。	確認テスト 定期考査	定期考査 提出プリント	確認テスト 提出プリント 振り返りシート 観察
	図形の性質	18 図形の性質(1) 19 図形の性質(2)	a: 三角形の各の二等分線や五心に関する性質や定理，チェバ・メネラウスの定理，円と接線の性質，方べきの定理を理解し，使うことができる。 b: 問題の条件を理解し，使う定理や公式を見極めることができる。補助線などをうまく利用し，問題を解くために必要な条件を整理することができる。 c: 自身の発表に向けて問題への理解を深めている。解答内容をよりわかりやすく、より良い表現にしようと努めている。他者の発表の際に自分への理解へつなげようとしている。	確認テスト 定期考査	定期考査 提出プリント	確認テスト 提出プリント 振り返りシート 観察

※令和 5 年度以降入学生用

後期	実践問題	ＩＡ全範囲	a: 各問題について使う公式を見つけて問題を解くことができる。 b: 穴埋め問題の式と式の間を埋めることができる。与えられた情報を整理して正答を導く道筋を考えることができる。 c: 解いた問題を振り返って，自分の力で問題を解けるようになるために，必要な学習を考えることができる。	提出プリント 定期考査	提出プリント 定期考査	提出プリント 振り返りシート 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度